

笑顔のばあちゃんありがとう。

鈴木 愛渚

「ばあちゃん、クマに気をつけてね。」
とわたしと言うと、

「んだな。気がつけんべ。熊息でにげんべ。」

とじようだんまじりに、笑って答えます。ばあちゃんは、腰がまがつてしまい、畑仕事をする時も家にいる時も、腰をまげたままです。だから、畑や、家のまわりで、ぼったり熊に出会っても、走れっこないのに、いつもケラケラと心配なことも笑いとばしてしまふのです。じいちゃんが死んでから、一人で大きな家を守って住んでいるので、さびしくないのかな、こわくないのかなと、いつも心配になってしまいます。

ばあちゃんじまんの野菜ができてと、電話がかかってくる。きまつて雨の日です。なぜなら、雨の日は、働き者のばあちゃんの休みの日です。野菜に水をあげたり、草をむしったり、まるで、子どものようにかわいがって、いろんな種類の野菜を育てているばあちゃんも、

「雨の日は、天の神様が、野菜たちの守りをしてくれっから、休むべ。楽だなあ。」

と言つて、めずらしく家で休んでいるのです。

じいちゃんがいたころは、田んぼも作っていたので、三百六十五日、休む日は正月くらいなものだと言っていました。雨がふるどころか、カッパを着て、あちこちの田んぼを見まわりして、大変だったそうです。だから今はとっても楽だと言います。

この前、晴れた日に、ばあちゃんに会いに行ったら、やっぱり畑に行つていていませんでした。いつも疲れて帰ってくる、ばあちゃんの手伝いをしようとお母さんと妹と三人で、おそうじをしました。茶の間や台所をいっしょうけんめい、はいたり、ふいたりしてきれいにしました。さいごに、仏だんに線香をあげたら、じいちゃんの写真のほかに、たくさん写真がござつてあるのに気づきました。母は、手を合わせながら、

「この中のだれか一人でもいなかつたら、わたしたちみんなこの世に生まれなかつたよ。」

と教えてくれました。なんだか、不思議な気持ちになりました。命を大切にしたいです。

帰つてきたばあちゃんに、なぜそんなに働くのか聞くと、畑につれて行つてくれました。

「この畑のように、じいちゃんが大切にしてくれたものを、守りたいんだよ。」

と笑つてキウイの花をつみながら答えてくれました。大きく枝を伸ばしたキウイの木はじいちゃんが子や孫に食べさせたいと植えたもので、ばあちゃんが世話をして育ててきた宝物です。天国のじいちゃんからわたしたちに毎年届くプレゼントだったのです。

働き者のばあちゃんの作る野菜やくだものから、わたしたちは、たくさん元気もらいます。ばあちゃん、じいちゃんの方まで長生きしてね。たくさんやさしさありがとう。